

アジアの日本から世界の日本へ

—日清・日露戦争とアジアの国々の動き—

高崎市立矢中中学校 柿沼英二



1 本単元について

本単元では、大陸をめぐる当時の国際情勢を背景に、戦争に至るまでの我が国の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化などを扱う。

ここでは、イギリスをはじめ欧米諸国の東アジアをめざした植民地獲得競争という当時の国際環境をふまえながら、日本と中国・朝鮮・ロシア・アメリカとの関係の学習を行う。これは、新学習指導要領の歴史的分野の目標である「我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させること」や、「国際関係のあらましを理解させること」をめざすのによい教材であると考える。その中で、自らの課題の設定・解決のために資料を収集したり、戦争をめぐる各国の立場や意見の相違、日本国内での意見の違いなどを考察したりすることは、様々な資料を活用して「歴史的事象を多面的・多角的に考察」し公正に判断する力を養うことにもつながる。

2 指導方針

- (1) 本単元では、生徒の疑問から学級全体の総合課題と生徒個々の自己課題を設定し、それらを追及しまとめていく課題解決的な学習を進めていく。
- (2) 課題を設定する段階では、ビデオ教材・年表・ワークシートを利用し、単元全体を見渡して疑問に思うことや調べてみたいことが出やすいようにする。
- (3) 課題追究の段階では、吹き出しなどを使い、各国の立場などを考えやすいようにし、多面的・多角的に考察できるようにする。
- (4) まとめる段階では、話し合い活動を取り入れ、意見交換をする中で生徒の視野を広げていく。
- (5) ワークシートを工夫し、歴史事象の「原因」「経過」「結果」「影響」などを考えやすくし、思考の順序を学べるようにする。

3 授業の展開例

- (1) 教科書の年表やビデオ、学習プリントから、単元全体の大まかな歴史の動きや流れを知る。
 - ・次のような学習プリントで単元における疑問を出させ、課題作りをする。

学習プリント	『日清・日露戦争を探る』
	2年 組 番 氏名 _____
1894 ()	に東学党の乱がおこる
()	戦争がおこる
1895 ()	条約を結ぶ
	三国干渉 () () ()
1900 清の ()	に出兵する
1902 ()	同盟
1904 ()	戦争がおこる
1905 ()	条約を結ぶ
1910 日本 ()	併合する
	1. ビデオや資料から疑問に思ったことや、調べたいと思ったことを書こう。
	○ _____
	○ _____
	○ _____
	○ _____
	↓
	自己課題を作ろう

	↓
	クラスの課題を書こう

共通課題 (クラスの課題)：日清・日露戦争はどうして起きたか考えよう。また、その影響を調べよう。

- (2) 日清戦争の背景・原因・結果・影響などを調べる。
 - 次の二つの資料から、日本と清の戦争に対する考えの違いを発表させる。
 - そして、戦場になった朝鮮の人々の気持ちを考えさせる。

「宣戦布告の内容」

日本：朝鮮は独立国であるのに、清はまるで属国のように扱っている。日本は朝鮮の治安を保ち、日本の権益を守り、東洋の平和を実現するために出兵するのだ。

清：朝鮮は、昔から清の属国であった。それなのに日本は、武力で朝鮮をおどし、条約も守ろうとしない。清は、朝鮮人民の苦しみを救うために出兵するのである。

意見を言っているか考えさせる。

- ・教科書や資料集を活用して班で討議し、あくまでも当時の時代背景をふまえて考えさせるようにする。
- ・日本国内の意見も教科書の資料から考えさせ、発表させる。
- ・各班から出された意見を比較・分類し、意見を述べ合い、課題解決にせる。



帝国書院『中学生の歴史（最新版）』p.167

●教科書p.169「授業のあとでやってみよう」

「あなたが日清戦争の結果を伝える記者だとしたら、どんな見出しを作りますか。日本、欧米、清、朝鮮、それぞれの国の記者になって考えてみましょう。」

新聞記事の見出しを、個人→班→クラスの順で考え、発表させる。

(3) 日清戦争の影響をふまえ、日露戦争の頃の国際関係を調べる。

●次のような学習プリントを提示し、国際関係や各国の意見を考えやすくする。

●学習プリント2

- ・日本・ロシア・イギリス・アメリカ、そして「栗」のふきだしを提示し、各国がどのように

学習プリント 『日露戦争を探る』
2年 _____ 組 _____ 番 氏名 _____

1. 日清戦争後の国際関係

2. 日露戦争

3. 日露戦争後日本はどうなっていくのか

●開戦論—東京大学七博士（『東京朝日新聞』明治36年6月24日）

ロシアは朝鮮に問題をおこそうとしている。なぜなら、争いの中心を朝鮮にすれば、満州はもうロシアの勢力範囲にあるとみなすからだ。したがって、極東の問題は満州の保全にかかっている。……われわれがこの開戦の機会をのがすならば、日本はその存立をもあやしくしてしまうことを知らなければならない。

●非戦論—内村鑑三（『万朝報』明治36年6月30日）

私は日露の非開戦の論者であるだけではない。戦争に対して絶対的な反対論者だ。戦争とは人を殺すこと、そして、人を殺すことは大罪悪である。……戦争廃止論はいまでは、文明国の世論だ。戦争廃止の主張がない国は未開国だ。そう、野蛮国にほかならない。

帝国書院『中学生の歴史（最新版）』p.169

●学習プリント3

- ・ポーツマス条約や戦後の国民意識から、次に行われる朝鮮進出を予想できるようにする。

(4) 日清・日露戦争によって勢力を得た日本が韓国を植民地にしたことを、当時の国際情勢とともにとらえる。

- 日本政府の考え・韓国の人々の考えや気持・他の国から見た当時の日本、これらを対比できるように資料を提示し、考えさせる。
- ・ 次の二つの資料から、日本政府は朝鮮をどのように見ていたか考えさせる。
- ・ また、韓国の人々の感情についても思いをめぐらせるよう指導したい。

第1回帝国議会(1890)での首相山県有朋の演説

「わが日本が、独立国家としてだれからも犯されないようにするためには、第一に主権線(国境)を守ること、第二には、利益線(朝鮮半島)を保護することが大切である。

初代朝鮮総督・寺内正毅の訓辞

「もし朝鮮の少年らに独立や帝国(日本)への反抗の考えを広めたら、その結果としてどんなことがおこるかは、朝鮮人自身もよく考えねばならないのである。たとえ独立を呼び暴動を起こしても、帝国は実力でこれを鎮圧するだろう。つまり、帝国は、何ら苦痛を感じることはない。むしろ、不利益をこうむるのは朝鮮人自身であるということを、よく考えさせねばならないのである。



▲① 東京でうつされた韓国皇太子と伊藤博文

帝国書院『中学生の歴史(最新版)』p.170

- ・ 次の資料から、韓国の人々が当時の日本の行動をどうとらえていたか、考えさせる。

外国から見た日本

韓国の教科書にみる安重根

安重根は、伊藤博文を射殺したため、日本では暗殺者とされていますが、韓国では民族的英雄として尊敬されており、教科書でも次のようにとりあげられています。

「安重根は、韓国侵略の元凶である伊藤博文が、大陸侵略についてロシア代表と交渉するために、満州のハルビンに来たところを射殺した。安重根のこの行動は、日本の侵略に対するわが民族の強い独立精神をよく表したものである。」

帝国書院『中学生の歴史(最新版)』p.171

- ・ 次の資料から、欧米諸国に植民地にされていた他のアジアの国の人は日本をどう見ていたか、考えさせる。

外国から見た日本

ネルーが娘に語った歴史

日本のロシアにたいする勝利がどれほどアジアの諸国民をよるこばせ、こおどりさせたかということをおわれば見た。ところが、その直後の成果は、少数の侵略的帝国主義諸国のグループに、もう一国をつけ加えたというにすぎなかった。そのにがい結果を、まず最初になめたのは、朝鮮であった。(『父が子に語る世界歴史』より)

帝国書院『中学生の歴史(最新版)』p.170

- (5) 単元の総合課題・自己課題について、これまでの学習を基にまとめる。

4 まとめ

この単元では、いろいろな視点でものを考え表現したり、違う立場に身を置いて考え表現したりすることを主眼とする学習を組んでみた。歴史を学ぶことによって、「自分はこれからどう生きていけばよいのか」「日本は、また世界の人々は、この後どう進むべきなのか。」などということを考える一助とできればと思う。